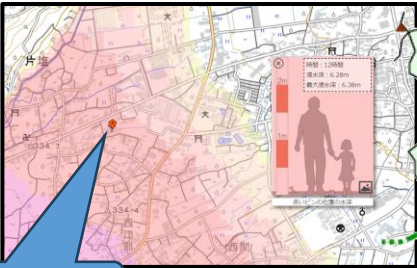


課題(令和5年10月岳南全員協議会)

庁舎規模(令和7年2月岳南全員協議会 概算設計より)

場所	現在地は、平成28年5月30日国土交通省が指定した信濃川水系千曲川浸水想定区域に含まれ、 最大6.38mの浸水 が想定されています。大規模水害発生時における消防施設の機能維持の困難が想定され、住民の安心、安全を担保する条件を欠いています。 ※最大浸水想定は、水防法による千曲川の「浸水想定区域(L2:想定最大規模降雨)」
建物	現庁舎は建築から30年が経過し、雨漏りや地下水の浸透、敷地アスファルト舗装の劣化等が顕著で、今後大規模改修が必要となる見込みです。 また、令和3年度の組織再編に伴い、職員の増員や資機材の増加及び車両の大型化等により 現庁舎の狭隘化 が進み、今後の業務継続に支障をきたすおそれがあります。
土地	組合が発足した平成7年から3者と賃貸借契約を締結、土地評価価格が約8千万円(令和5年時点)に対し、 30年間で約1億8千万円の賃借料の支払い となります。



結論

「消防庁舎 = 防災・救急活動の拠点、住民の生命・身体・財産を守る。」
長期の消防行政を見据え、「庁舎移転」が望ましいと考えます。

場所(令和6年3月岳南全員協議会、令和6年10月岳南全員協議会)

理想の立地は、現在ある当組合の抱える課題及び近年、移転を行った消防本部を参考に決めております。

No.	理想の立地	北部	南部	市有地
1	浸水、土砂災害の大きな影響を受けないこと	○	○	○
2	広域応援に対応でき、防災の拠点となる敷地であること	○	○	○
3	市街地周辺及び住宅が密集していないこと	○	○	▲
4	管轄区域内の出勤時間の均等化が図れること	○	▲	▲
5	幹線道路に面していること	○	▲	▲
6	高速道、山ノ内町へのアクセスがしやすいこと	○	▲	▲
7	ガソリンスタンドが近くにあること	○	○	○

比較表(○解決または効果が高い ▲解決にならないまたは効果が低い)

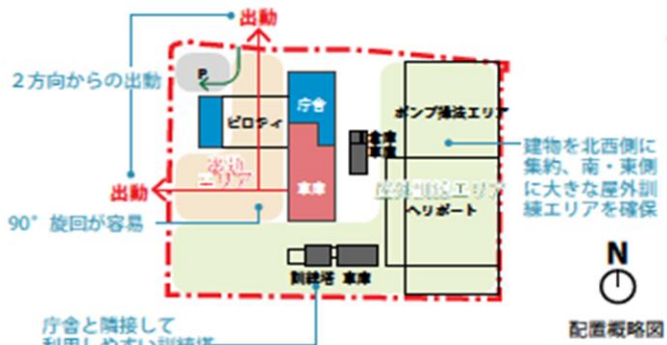


結論

当組合が考える「理想の立地」の条件を満たした、北部案(田麦交差点東側付近)を新庁舎移転候補地域としたい。

敷地面積	約11,000㎡
内容	規模災害の発災を想定した災害時受援場所及びヘリポート、また、消防団を要とする地域防災のための各種訓練場所として使用できる敷地。
浸水想定区域	50cm以下
土砂災害警戒区域	なし
上下水道	なし

項目	規模	内容
庁舎	3,000㎡	保有車両数及び県内の消防本部の例を参考とし、当組本部の職員数等を踏まえ、算出
訓練塔	360㎡	複雑多様化する災害に対応するため、各種訓練に対応可能な十分な広さを持つ施設
最大人数	94人	定年延長を踏まえた職員採用計画に基づく人数
最大車両	19台	現有車両に今後の消防力整備指針に基づくはしご車の導入を考慮
その他		駐車場、屋外訓練場、ヘリポート、操法訓練、緊急援助隊宿营地等



スケジュールと金額(令和8年3月岳南全員協議会 基本設計より)

スケジュール: 令和11年度4月の供用開始を目指します。

	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
実施設計	約12ヵ月			
用地取得				
造成、外構	造成工事		外構工事	
建設工事		約24ヵ月		
指令施設設計・工事				
解体工事				旧庁舎解体
供用開始				供用開始

概算事業費: 総額約51億円、うち建設工事費は約31億円となります。

	項目	金額 (百万円)
消防庁舎	工事費	3,108
訓練塔含む	造成、外構費	456
	用地費	57
付帯工事費等	指令施設費	810
	その他(設計、監理、上下水道工事、解体)	707
	合計	5,138

(税込み)